

# 横浜市感染症発生動向調査報告(令和8年2月)

委員会開催日(2026年2月26日)時点のデータになります。

## 《今月のトピックス》

- 麻しんの国内感染例の報告がありました。
- インフルエンザは年明けに2回目のピークを迎えました。依然流行警報の値を上回っています。
- 感染性胃腸炎は減少傾向ですが、例年よりも高い値で推移しています。
- 梅毒は20～40歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く報告されています。10歳代の報告も見られます。

◇ 全数把握の対象 <2026年1月19日～2026年2月22日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	6件	ジアルジア症	1件
E型肝炎	5件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3件
A型肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	8件
レジオネラ症	5件	水痘(入院例に限る)	3件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	30件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1件	播種性クリプトコックス症	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7件	百日咳	26件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	1件	麻しん	2件

1. **腸管出血性大腸菌感染症**:10歳代～40歳代で、O血清群はO128が3件、O157が1件、O不明が2件です。すべて無症状病原体保有者で、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が5件です。
2. **E型肝炎**:30歳代～60歳代で、無症状病原体保有者が2件です。経口感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が3件です。
3. **A型肝炎**:20歳代(ワクチン接種歴無)で、経口感染と推定されます。
4. **レジオネラ症**:50歳代～80歳代で、すべて肺炎型です。感染経路等は水系感染と推定される報告が1件、その他と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が3件です。
5. **ウイルス性肝炎**:20歳代で、病型はB型(ワクチン接種歴不明)です。感染経路は性的接触(異性間)と推定されています。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:70歳代で、感染経路は手術部位関連感染と推定されています。
7. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:40歳代～80歳代で、血清型はA群が3件、B群が1件、G群が3件です。創傷感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が5件です。
8. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:30歳代で、病型はAIDSです。感染経路は性的接触(同性間)と推定されます。
9. **ジアルジア症**:50歳代で、感染経路等不明の報告です。
10. **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:10歳代～60歳代で(ワクチン接種歴4回1件、不明2件)で、接触感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が2件です。
11. **侵襲性肺炎球菌感染症**:40歳代～80歳代(ワクチン接種歴1回1件、無2件、不明5件)で、接触感染と推定される報告が2件、感染経路等不明の報告が6件です。
12. **水痘(入院例に限る)**:30歳代～40歳代(ワクチン接種歴不明3件)で、臨床診断例1件、検査診断例2件です。院内感染と推定される報告が1件、感染経路等不明が2件です。
13. **梅毒**:10歳代～70歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期13件、早期顕症梅毒Ⅱ期9件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者が7件です。性的接触による感染と推定される報告が26件(異性間18件、同性間1件、詳細不明7件)、感染経路等不明の報告が4件です。
14. **播種性クリプトコックス症**:80歳代で、感染経路等は不明です。
15. **百日咳**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回4件、3回1件、1回3件、無1件、不明17件)で、家族内感染と推定される報告が10件、感染経路等不明の報告が16件です。
16. **麻しん**:2件とも20歳代(ワクチン接種歴無1件、不明1件)で、いずれも感染経路等は不明です。

報告週対応表	
2026年第 4週	1月19日～1月25日
第 5週	1月26日～2月 1日
第 6週	2月 2日～2月 8日
第 7週	2月 9日～2月15日
第 8週	2月16日～2月22日

## ◇ 定点把握の対象

※ 2025年第14週(3月31日～4月6日)以降、小児科定点は94→51、内科定点は59→39医療機関に変更されました。

## 1 インフルエンザ

2025年第43週(10月20日～10月26

日)に流行注意報(10.00)、第45週

(11月3日～11月9日)に流行警報

(30.00)の発令基準を超えました。そ

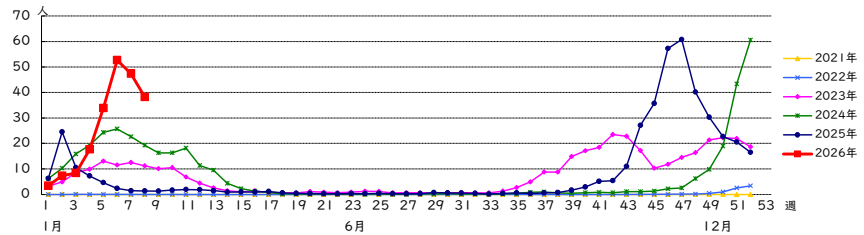
の後増加が続き、第47週(11月17日

～11月23日)に60.78で1回目のピーク

を迎えました。その後は減少

傾向でしたが、年明け以降再び増加に転じ、第4週に流行注意報、第5週に流行警報の基準を再び超えました。

第6週に52.73で2回目のピークを迎え、以降減少しています。第8週は38.25です。



## 2 感染性胃腸炎

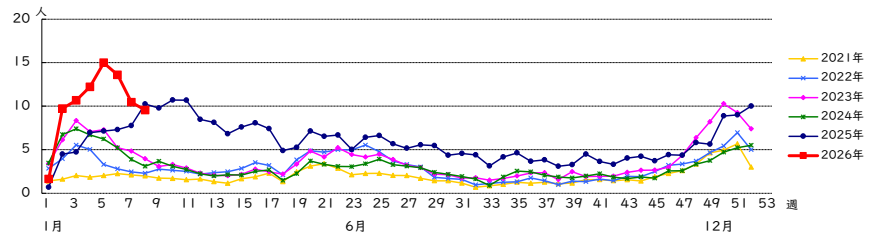
2025年第46週(11月10日～11月

16日)以降増加傾向が続き、2026

年第5週に14.98でピークを迎

えました。以降は減少傾向で、第8

週は9.54です。



## 3 性感染症(2026年1月)

性器クラミジア感染症	男性:33件	女性:28件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:10件	女性:13件
尖圭コンジローマ	男性:19件	女性:2件	淋菌感染症	男性:16件	女性:1件

## 4 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週	第7週	第8週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.25	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

## 5 基幹定点月報(2026年1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	14件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2026年第4週～第8週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点189件、小児科定点2件、定点医療機関2件、定点医療機関外1件でした。

2月25日現在、表に示した各種ウイルスの分離33株と遺伝子113件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2026年第4週～第8週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	消 化 器 症 状
	インフルエンザウイルス AH3	7 5	
インフルエンザウイルス A (亜型未同定)	- 1		
インフルエンザウイルス B (ビクトリア系統)	26 -		
インフルエンザウイルス B (系統未同定)	- 66	- 3	- 1
ライノウイルス	- 12		
SARS-CoV-2	- 11		
RS ウイルス	- 4	- 4	
ヒトメタニューモウイルス	- 3		
ライノウイルスまたはエンテロウイルス	- 1		
パラインフルエンザウイルス1型	- 1		
アデノウイルス	- 1		
合 計	33	-	-
	105	7	1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2026年第4週～第8週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症3件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症8件、侵襲性インフルエンザ菌感染症3件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1件でした。

基幹定点からの検査依頼はサルモネラ症1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症3件、マラリア2件、細菌性髄膜炎1件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎4件、「ARI定点」から3件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2026年第4週～第8週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	3	O128:H2	VT1 VT2 (1)
			OUT:H21	VT1 VT2 (1)
			OUT:H+	VT1 (1)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8	A群溶血性レンサ球菌	TB3264 (1)
			A群溶血性レンサ球菌	T型別不能 (2)
		B群溶血性レンサ球菌	I b型 (2)	
		G群溶血性レンサ球菌	(3)	
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3	<i>Haemophilus influenzae</i> a型	(1)
			<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能	(2)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	<i>Citrobacter freundii</i> complex	(1)
基幹定点	サルモネラ症	1	<i>Salmonella</i> Treguier	(1)

分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	レジオネラ症	3	喀痰	レジオネラ属菌 培養陰性(3)
	マラリア	2	血液	<i>Plasmodium falciparum</i> 遺伝子陽性 (1)
			塗抹標本	<i>Plasmodium falciparum</i> 陽性 (1)
基幹定点	細菌性髄膜炎	1	髄液	細菌16SrRNA遺伝子 陰性(1)

小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	A群溶血性レンサ球菌 T4 (1)
				A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (3)

ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	3	百日咳菌遺伝子 陰性
				肺炎マイコプラズマ遺伝子 陰性
				溶血性レンサ球菌 培養 陰性 (3)
				百日咳菌培養 陰性

【 微生物検査研究課 細菌担当 】